

リクガメの餌の組み立て方

○桐生大輔

(公益財団法人 横浜市立金沢動物園)

飼育下のリクガメの給餌内容は経験から決められることが多く、野生下で摂取できている栄養成分の不足からリクガメの体形に様々な変化, 支障がでる場合も多い. そのため, その種が生息している地域の1年を通じた環境を調べ, 餌となる植物の1年を通じた量や質の変化を推察して決めていくという手法をとっている. 一口にリクガメと言っても数多くの種があり, 野生下の餌もさまざまであるので, 生息地が熱帯なのか温帯なのか, 森林か乾燥地か, 乾季と雨季に分かれているかなどを調べ, その環境で餌となる植物の1年を通じたサイクルを推測して餌を組み立てる. 乾季なら植物の成長は止まり, 蛋白質含量が下がる. 生えている量も減るので食べている量も結果的に減る. 雨季は活発に成長するので細胞分裂の増加から蛋白質含量が増え, 生えている量の増加から食べる量も増えると推測できる. こういったことから具体的に餌を組み立てる. その際, 日本で手に入る野菜は化学肥料の多給により, 高蛋白でリン含有量が高い場合があることに留意する必要がある. できればマメ科以外の雑草を主に使うことが望ましく, 餌には炭酸カルシウム剤及びビタミン D3 を含む総合ビタミン剤の添加が必要である.